

医・歯・看護学生を対象としたEBMのstep4教育の試み ～pES clubの軌跡:第4報～

P2-16.

南郷 栄秀

虎の門病院分院 内科総合診療科, 東京医科歯科大学大学院 総合診療医学分野

今回明らかになったこと

- ◆ 医療系学部の卒前教育では、コミュニケーション教育や社会人としての素養を身につける教育が不十分である
- ◆ 卒前教育において、EBMのstep4教育の一環として、より実践に即した形式でこれらの演習を行うことは有益と考えられた

緒言

- ◆ 学生のうちにEBMの基本的な概念を取得し、卒後の業務に役立てることを目指して、2002年6月より、学生を対象とした1年間のEBM勉強会 (post EBM Seminar club; pES club) を計画・実施している
- ◆ 第1～3期では一定の成果を収め、すでに第1～3報にて報告した

第4期で試みたEBMのstep4教育について報告する

pES club概要

- ◆ 対象:
 - ◆ 医学部・歯学部学部生
 - ◆ 4年制大学学部生, 修士課程(博士前期課程)大学院生
- ◆ 募集方法:
 - ◆ 毎年12月に、3時間の準単方向講義形式のEBMセミナーを開催
 - ◆ そこでEBM学習を深めたいと希望した学生の中から、1年間継続して学習する学生を選抜
- ◆ カリキュラムと年間スケジュール:
 - ◆ 月1回の例会
 - ◆ 例会を補完するメーリングリスト
 - ◆ 前期は、step3を中心に一通りEBMの手順を学ぶ
 - ◆ 中期は応用編として、4つのstepそれぞれに特化した演習を行う
 - ◆ 後期の3回は、次期の前期を兼ね、後輩を指導しながら復習する

方法

- ◆ 中期に行ったStep4大会において、患者とのコミュニケーションと社会人としての振る舞いに重点を置いた学習を行った
- ◆ Step4大会の内容:
 - ◆ ワークシートを用いた敬語の学習
 - ◆ 就職面接シミュレーション
 - ◆ 接遇
 - ◆ 患者への病状説明
 - ◆ 紹介状の書き方
 - ◆ ネチケットを遵守したメールの書き方
- ◆ より実践的な教育を行うために、職種異なる社会人4名(非医療従事者含む)が指導にあたった
- ◆ 評価:
 - ◆ 参加した学生を対象に、step4大会の前後で質問票調査を行った

事後アンケートの結果

表2. Step4大会の満足度(100点満点)

全体	96点
ワークシートを用いた敬語の学習	75点
就職面接シミュレーション	96点
接遇	83点
患者への病状説明	88点
紹介状の書き方	79点
ネチケットを遵守したメールの書き方	84点

- ◆ 満足度は、就職面接シミュレーションで最も高く、次いで、社会人を患者とみだてての病状説明、ネチケット、接遇の順であった

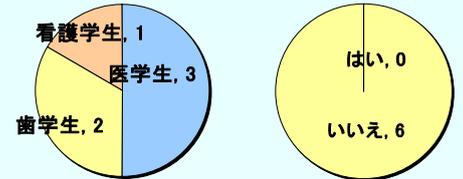
いずれも従来の学部教育では十分な時間が割かれてこなかったものであるが、学生は診療に臨むにあたって直ちに必要となる技量の習得を特に強く望んでいると考えられた

結果および考察

事前アンケートの結果

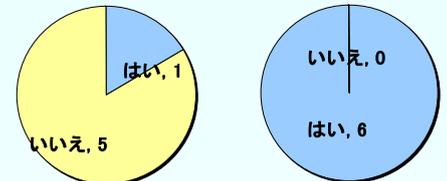
参加学生の内訳

問1. 日本語が正しく使えるか



問2. 大学で日本語の指導を受けたか

問3. 大学でコミュニケーションの指導を受けたか



問4. 大学のコミュニケーション学授業に期待するもの

- ◆ 様々なシチュエーションにおけるより実践的なロールプレイと、それに対するフィードバック(医学生)
- ◆ 医療スタッフ間のコミュニケーションの方法(歯学生)

Step4大会終了後の感想

- ◆ 1日で全てをこなすのは時間的に困難だった。特に社会人の方に来ていただいているので、いなくてもできる場所は別の日にまわすべき(医学生)
- ◆ 就職面接シミュレーションはこれから就職活動を行うのに役に立ったが、履歴書の添削もして欲しかった(医学生)
- ◆ 敬語表現はただ答え合わせをするだけでなく、もっと突っ込んで内容を聞いたかった(医学生)
- ◆ マッチングがあるので、面接はもっと早くやったほうが良い(医学生)
- ◆ 患者への説明で、医科・歯科・看護の分野で様々な違いがあることも分かって良かった(歯学生)
- ◆ 紹介状を見たことも書いたこともなかったので、理解しにくかった。また、看護サマリーの存在を知った(歯学生)
- ◆ 名刺の作り方や渡し方など、初めて聞く話ばかりだった(看護学生)

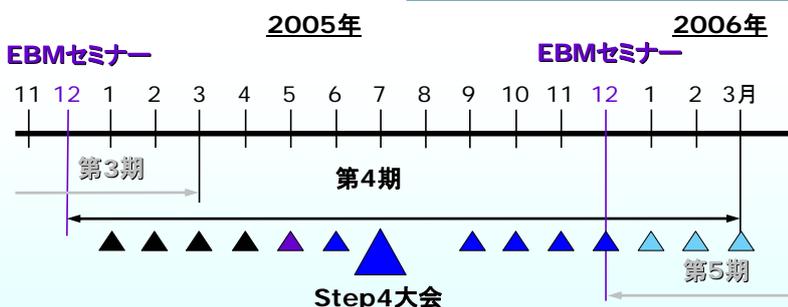


図1. pES club年間スケジュール